

情報を関連付けて読む力を育てる小学校国語科学学習指導

－スキーマの可視化により文章の全体像と部分とをつなぐ指導を通して－

桐生 直也

(児童生徒支援コース 13502005)

1 問題

(1) 全国的な児童の読解力に見られる課題

文部科学省実施の全国学力・学習状況調査のうち、平成19年度から22年度までの4年間の調査結果を受けてまとめられた国立教育政策研究所（2012）によると、「読むこと」の課題は、「物語に登場する人物についての描写や心情、人物相互の関係を捉えること」「目的に応じて必要となる情報を取り出し、それらを関連付けて読むこと」である。

(2) 本校の児童の読解力に見られる課題

平成26年4月に行われた全国学力・学習状況調査の問題のうち、「読むこと」領域全体の正答率を全国比と比較すると、全国68.5に対して64.5と、4ポイント下回っていた。そこから、本学級には「読むこと」領域において課題を抱えている児童が多いことがうかがえる。また、設問別に見ると、文学的文章及び説明的文章を扱った問題で正答率が全国平均を大幅に下回ったものが、表1に示した2問存在する。

表1 H26. 4に実施された調査問題のうち、本学級に課題が見られた設問（読むこと）

	設問（出題の趣旨）	全国	本学級
①	国語A[5]「物語の登場人物の相互関係を捉える」 （物語の登場人物の相互関係を捉えることができるかどうかをみる。）	65.3	48.4
②	国語B[2] 二「科学に関する本や文章などを効果的に読む」 （分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くことができるかどうかをみる。）	26.9	19.4

表1を見ると、いずれも複数の情報を抽出し、統合する力、つまり、情報を関連付ける力が必要な問題であると捉えることができ、本学級の児童がこれまでの全国の児童と同様、情報を関連付けて読むことに課題を抱えていることを示している。

2 先行研究に基づいた、本研究における読む力向上のための手立て

(1) 文章を理解するということ

西林(2005)は、文章や文において、その部分間に関連が付かないと、「わからない」という状態を生じるとし、逆に、部分間に関連が付くと、「わかった」という状態を生じるとしている。さらに、『何の話か（文脈）がわからなければ話がわからない』のは、どの『スキーマ』を使っていいかわからないため」とも述べている。スキーマとは、あることとがらに関する、ひとまとまりの知識のことである。

(2) テキストの全体像をとらえる学習過程の工夫

河野(2010)は、「全体から部分へ、部分から全体へ」と展開していく学習過程を提唱する。そこには、「文章全体の大体の理解」「全体から部分へ」「部分から全体へ」「考えの形成」という過程が示されており、いずれもに文章の「全体」ということが意識されている。児童が情報を関連付けられない理由の一つとして、「情報を関連付けるために必要な文脈を理解していない可能性」について先述したが、常に文章の全体像を意識しながら文章を読むことは文脈の理解につながり、情報の関連付けにも有効に働くことが期待される。

(3) 全体と部分、部分同士を関連付けるためのスキーマの可視化

本研究では、国語科における「文学的文章」「説明的文章」の2種類を取り上げ、それらの文章を理解するために有効に働くと考えられるスキーマを次のように仮定した。

- 1) 文学的文章スキーマ
物語中、主人公を大きく変える事件が起こる。その事件の前後の変化に着目することで、物語の主題を読み取ることができる。
- 2) 説明的文章スキーマ
文章中には結論・主張等、筆者の伝えたいことが書かれている。(目的)そして、それ以外の部分にその伝えたいことを支える理由が書かれている。(手段)

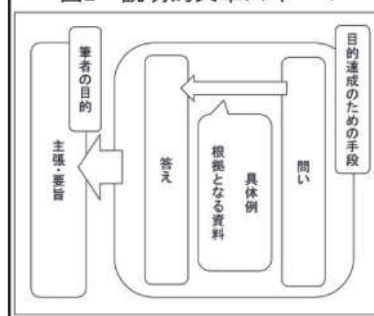
そして、児童に効果的に文章理解のためのスキーマを与え、文章理解の一助とするために、図式化によるスキーマの可視化を試みる。塚田(2005)は、図式化することで、文章だけで理解しようとするのが難しい内容も、視覚的に捉えることができるようになり、理解が促進されると述べている。また、中原(2013)は、図式化により、「全体と部分、部分と部分の関連付け」を可視化できるとしており、図式化が、河野(2010)の提唱する指導過程を支える手段として用いることができることを示唆している。これはまさに本研究で文章理解の手立てとして用いようとしているものに合致する。

ただし、一口に「スキーマ」と言っても、児童の頭の中にもたせるために読みの構えとして一般化された、文学的文章・説明的文章特有のスキーマと、よりその文章に特化したスキーマとは区別して考えていく必要があると考える。そこで本研究では、単元を通して説明文・物語文特有のスキーマを視覚化して児童にくり返し提示することで、汎用性の高い読みの構えをもたせるとともに、単元ごと、単位時間ごとに教材文に特化したスキーマをワークシート等に教材化して活用し、教材文に対する文章の理解を促していく。

図1 文学的文章スキーマ



図2 説明的文章スキーマ



①文学的文章・説明的文章特有のスキーマの可視化のための図式化

ここに、一般的な文章理解のためのスキーマを図に表すことで可視化したものを提示する。(図1、図2)これを、「読むこと」領域の学習の中でくり返し提示し、児童に読みの構えをもたせていく。

②教材文に特化したスキーマの可視化

①で示したスキーマ以外に、各教材文、各学習過程に特化した形でスキーマを捉え直ししてワークシートや板書等に示すことで活用し、文章理解の一助としていく。

3 本研究の仮説

常にスキーマ(文章の全体像)を意識できるような学習過程の工夫を行い、児童が文章を読む際の基盤を作る。さらにそれぞれの学習過程においてそのスキーマを文章全体と部分の関連付けや部分同士の関連付けに活用する。そのようにして文章全体と部分とを行き来する読みの指導を行うことで、児童の情報を関連付ける力を育てることができるだろう。

4 授業実践の概要

(1) 実践の全体像

実践校は富岡市立高瀬小学校、対象学級は6年3組(31名)である。実践の流れを表2に示した。ここに示された実践を通し、情報を関連付けながら読む力の育成を目指す。

表2 実践の全体計画

	期間	調査方法	内容とねらい
実践1 ねらいb ①含む	4/ 9 4/30	事前・事後調査 ワークシート	・文学的文章「カレーライス」の実践前と実践後の文学的文章の読み方に対する児童の意識の変容を調査 ・実践前と実践後の教材文に対する理解度の調査
実践2 ねらいb ②含む	5/ 1 5/29	事前・事後調査 ワークシート	・説明的文章「感情／生き物はつながりの中に」の実践前と実践後の説明的文章の読み方に対する児童の意識の変容を調査 ・実践前と実践後の教材文に対する理解度の調査
※この間に実践3「話すこと・聞くこと」領域の実践を行っているが割愛する(本文参照)			
実践4 ねらいb ④含む	10/ 7 10/27	事前・事後調査 ワークシート	・文学的文章「やまなし」の実践前と実践後の文学的文章の読み方に対する児童の意識の変容を調査 ・実践前と実践後の教材文に対する理解度の調査
実践5 ねらいa 含む	10/31 11/21	事前・事後調査 ワークシート	・説明的文章『鳥獣戯画』を読むの実践前と実践後の説明的文章の読み方に対する児童の意識の変容を調査 ・実践前と実践後の教材文に対する理解度の調査
事後	11月 第5週	学力調査	・全国学力学習状況調査から、情報を関連付ける力を必要とする問題を抜粋し、その調査結果を全国平均と比較する。

(2) 効果検証の方法

本研究の効果については、以下の検証方法によって見取ることとした。

- ①児童の「読むこと」に対する意識変容をアンケートから調べる
- ②長期的ループリックをもとにした、目指す児童像の達成度から調べる
- ③全国学力・学習状況調査の正答率から調べる

5 成果の検証

(1) 児童の「読むこと」に対する意識変容をアンケートから調べる

文学的文章および説明的文章を読む際に使用されるスキーマがどれだけ自覚されているかを調査するために行ったアンケート調査であるが、結果が下がっていたり、上がっていたとしても統計的な有意差が見られなかったりと、成果とは言いがたい結果となった。よって、本研究によって児童の意識における望ましい変容は認められなかったと言える。

(2) 長期的ループリックをもとにした、目指す児童像の達成度から調べる

文学的文章及び説明的文章の学習における長期的ループリックを表3に示す。

表3 文学的文章及び説明的文章を読む力の長期的ループリック

文学的文章		
	カレーライス	やまなし
A	物語の主題と、自分の体験とを重ねた感想文を書くことができる。	「やまなし」の他に、賢治の人生を紹介した文章、「イーハトーヴの夢」や、賢治が作った詩「永訣の朝」など、を読み、作者の考え方や生き方を重ね合わせながら作者の伝えたかったことについて考えることができる。
B	冒頭から終末にかけて、主人公「ひろし」が何をきっかけにどのような変化をしたのか読み取っている。ま	「五月」と「十二月」の場面で起こる出来事や物語中にちりばめられた情景描写から、かのにの兄弟の変化を読み取っている。その変化と、「やまなし」というタイトルの意味

た、その変化から、この物語の主題についてまとめることができる。			を関連付け、物語の主題についてまとめることができる。
説明的文章			
感情／生き物はつながりの中に		鳥獣戯画を読む	
感情	生き物はつながりの中に		
A	筆者の伝えたいこととその根拠を踏まえながら、自分の経験と重ね合わせ、考えをもつことができる。	筆者の、『鳥獣戯画』は人類の宝だ」という主張に対して、根拠を明らかにしながら自分の考えを説明することができる。	
B	筆者が、楽しさをそこなうような感情のよさを根拠に多様な感情を認め、受け止めることの大切さを伝えようとしているということを理解することができる。(過不足なくまとめることができる)	筆者が、生き物がさまざまなつながりの中で生きているという特徴を根拠に、生き物として生きることの大切さを伝えようとしているということを理解することができる。(過不足なくまとめることができる)	筆者が、『鳥獣戯画』と、アニメや漫画とのつながりを根拠に、『鳥獣戯画』が人類の宝であることを伝えようとしているということを理解することができる。(過不足なくまとめることができる)

この長期的ループリックを基準にし、児童の評価を行った。「カレーライス」から「やまなし」及び、「感情・生き物はつながりの中に」から『鳥獣戯画』を読むへの評価の推移は表4、表5に示した通りである。

①文学的文章の学習内での変化から（表4）

「カレーライス」でBだった者のうち13名がAに、さらにCだった者のうち1名がBに上がっている。この結果は、「カレーライス」でB、Cだった者のうち、50%が上昇していることを表している。

表4 二単元内での変化(文学)

	カレーライス	→	やまなし
A	3	(1) → (2) → (13) →	14
B	26	(9) → (4) →	12
C	2	(1) → (1) →	5

②説明的文章の学習内での変化から（表5）

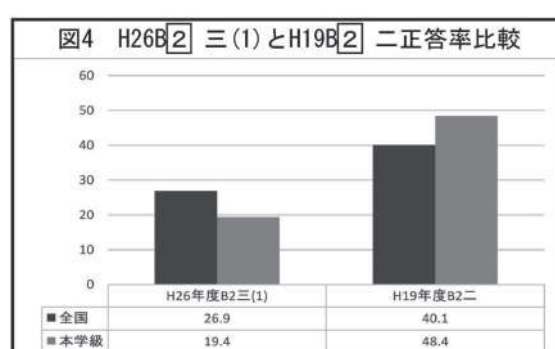
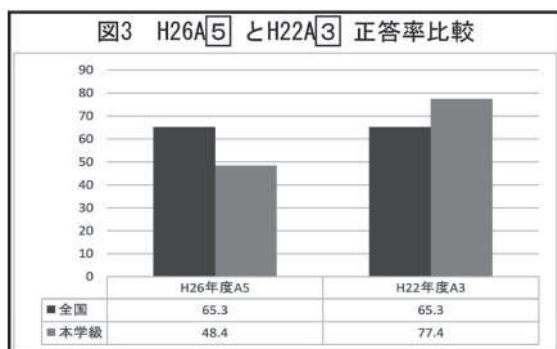
「感情／生き物はつながりの中に」でAだった者のほとんど(7/8)はそのままAにとどまり、Bだった者の45% (9/20)とCだった者の33%(1/3)がそれぞれAへと上昇している。

表5 二単元内での変化(説明)

	感情／生き物はつながりの中に	→	『鳥獣戯画』を読む
A	8	(7) → (1) → (9) →	17
B	20	(8) → (3) →	11
C	3	(1) → (2) →	3

(3)全国学力・学習状況調査の正答率から調べる

本学級の児童の課題を踏まえ、それと同等の力をはかることができると考えられる過去に実施された設問を2問選んだ。また、平成26年度の調査では文学的文章の読解に関する問題が無かったため、「4年間のまとめ」で取り上げられている「読むこと」における課題の両方に関わる問題として、平成20年度B2 の問題を取り上げた。どの問題においても、実践前に比べて実践後の方が全国比との差が縮まっていたり、全国比を上回っていたりと、成果が見られた。(図3、4、5)



6 成果と課題

(1) 成果

① 文学的文章・説明的文章特有のスキーマの可視化の成果

文学的文章・説明的文章特有のスキーマの可視化により、児童は何をどう読めばよいのかという読みの構えをもつことになった。文章の細部から情報を読み取るのが苦手な児童も、文章の全体像、つまり、「何の話か」がわかることで、学習課題への取り組みや話し合い活動への参加の姿勢もよくなり、結果的に学習の成果も上がっていた。

② 教材文に特化されたスキーマの可視化の成果

教材の内容に即し、各学習過程に応じて段階的に可視化したスキーマは、児童にとってのスモールステップになった。それと同時に、全体と部分をつなぐ役割を大いに果たした。

「読む」という行為は、全体と部分との関連付けに支えられたものであることを考えても、本研究において上記の2つのスキーマを意識して指導を行ったことは、児童の読む力の育成の一助になったと考えられる。

(2) 課題

① 長期的ループリックの見直し

本研究で用いた長期的ループリックは、それぞれの単元ごとの評価に用いる際には有効に機能したが、1つ目の単元と、2つ目の単元の成果を比較するには十分とは言えないものであった。学習前後の比較を視野に入れた項目の再検討をすることで、より児童の変容が明らかになってくると考えられる。

② 各学習活動において活用する図式の検討

図式化したワークシートを作成して学習を進めていくことで、児童の思考を狭めてしまっている可能性が感じられた。図式はある程度学習をスムーズに進めるためには有効であることがわかったので、今後は複数の児童の考えを1つの図に当てはめるのではなく、児童の思考に合わせた図の活用をしていけるように、学習をデザインしていきたい。

③ 効果検証としての児童アンケートの検討

今後研究を進めていく際には、児童が自己評価する形のアンケートの難しさを自覚した上で、アンケートの設問をより実践に寄せて作ることを意識して取り組んでいきたい。

【参考・引用文献】

国立教育政策研究所(2012). 全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取り組みが期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～
(小学校編) 国立教育政策研究所

河野庸介(2010). 国語科授業にスリルとサスペンスを 教育出版

中原章友(2013). 国語科における読解力の育成 ―叙述の関連づけを促す図式化を通して―
―平成24年度群馬大学大学院教育学研究科専門職学位課程教職リーダー専攻(教職大学院) 課題研究報告書

西林克彦(2005). わかったつもり 読解力が見つからない本当の原因 光文社

塚田泰彦(2005). 国語教室のマッピング 個人と協同の学びを支援する 教育出版

